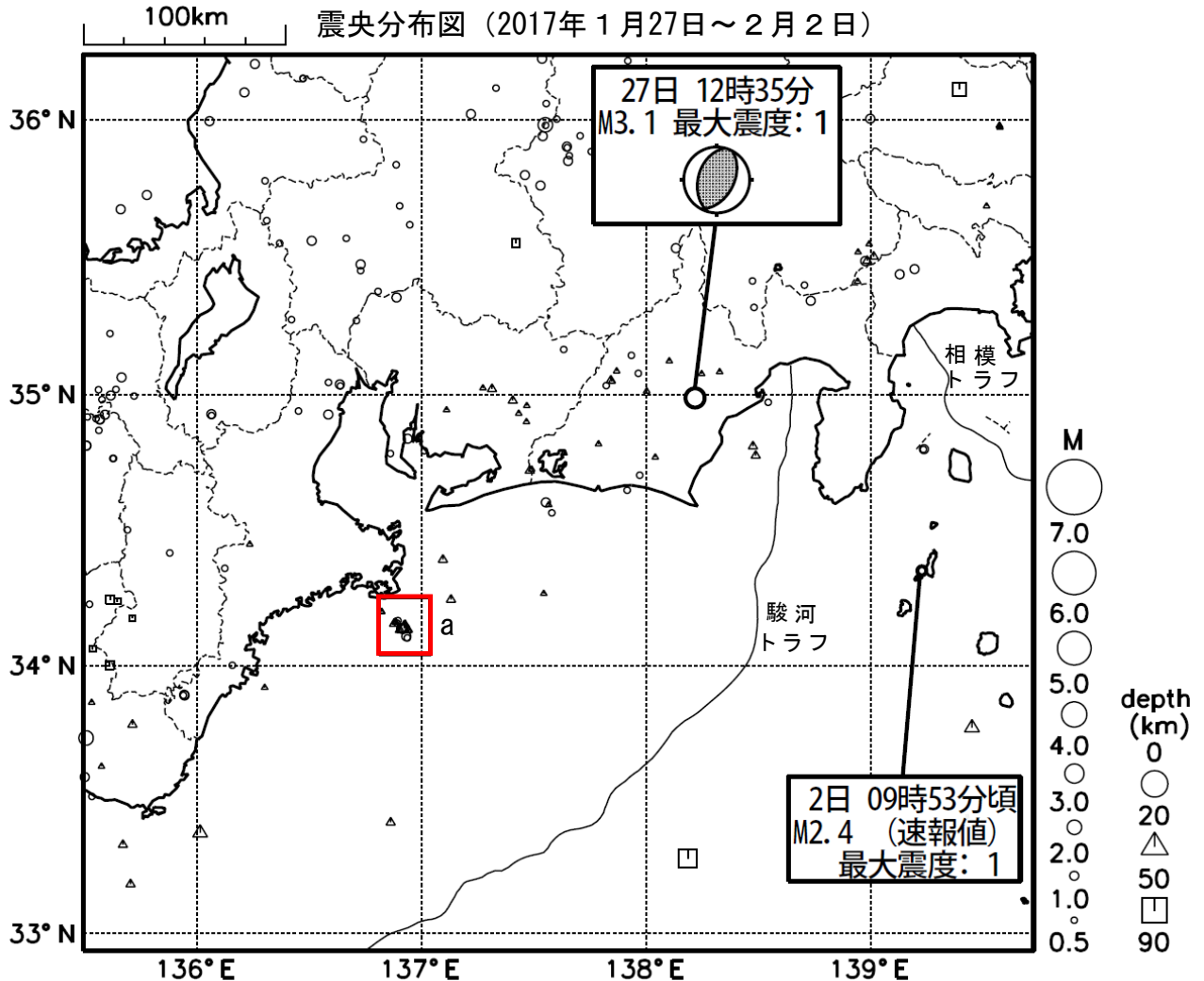


東海地域の週間地震活動概況 No. 5

*震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。



“震度1以上を観測した地震”、“東海地域でM3.0以上、その他の地域でM4.0以上の地震”及び“その他注目した地震”に「震源時、マグニチュード、最大震度」を付している（震源の深さ0～90km）。

【概況】

特に目立った活動はなかった。なお、平成25年はじめ頃から浜名湖付近のプレート境界で発生している「長期的ゆっくりすべり」は、現在は緩やかになっていると考えられる*。

【東海地域】

〔地震活動〕

- ・1月27日に静岡県中部の深さ19kmでM3.1の地震（最大震度1）が発生した。この地震は発震機構が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近で発生した。
- ・三重県南東沖（上図領域a内）の深さ約20kmで、1月31日から2月1日にかけてまとまった地震活動がみられた。これらの地震はフィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近で発生した。

〔深部低周波地震（微動）活動〕

- ・特に目立った活動はなかった。

【その他の地域】

- ・特に目立った活動はなかった。

※上の震央分布図には、震源決定精度が高い地震の震央のみ表示している。このため、震源決定精度が低い深部低周波地震（微動）の震央は表示されない。

国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震緊急観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

*平成29年1月地震防災対策強化地域判定会会長会見資料（<http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/gaikyo/hantei20170130/mate01.pdf>）参照